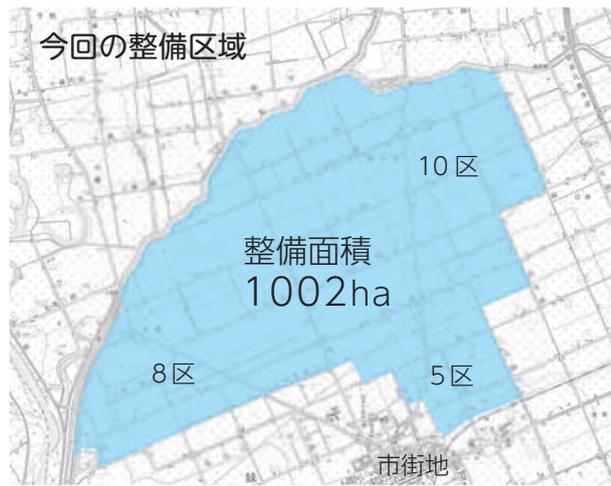


農業振興の活性化のため、より合理的で効率的な作業が行えるよう進めてきた「国営農地再編整備事業妹背牛地区」が今年度をもって完了しました。具体的にはどのような整備が行われたのか、この整備によってどのような効果が期待できるのかについて紹介していきます。



妹背牛町は道内有数のお米の生産地であり、最近はあるさと納税の返礼品としても大人気です。しかし近年、全国的にみられる農業従事者の減少と共に、妹背牛町でも農家の戸数は徐々に減っており、さらには高齢化も進んでいます。そうした中で、農地をもっと使いやすく、農作業をもっと楽にするために行われてきたのが「国営農地再編整備事業妹背牛地区」です。

平成20年に着工し、10年以上かけ行われて

# 代の農業を見据え、大規模かつ合理的な農環境へ

## 国営農地再編整備事業妹背牛地区



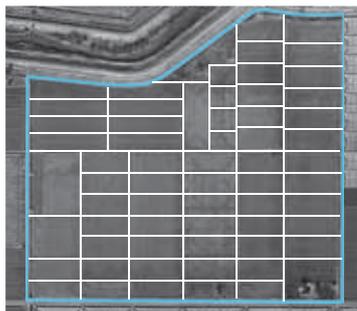
## 作業効率の向上を目指して

### 区画整理により、ほ場を大区画化

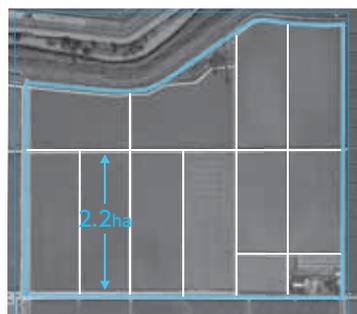
ほ場区画は着工前、下図のように狭小でしたが、この農地を「標準区画」と言われる 2.2ha または 4.4ha に区画整理しました。畦がなくなり草刈り作業が削減したり、田植え機などのターンが減ることにより作業効率の向上が期待されています。

また、大区画化の際に障害となっていたほ場を分断する排水路も引き直し、共に整備しました。

区画整理

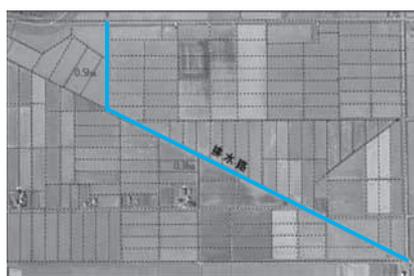


施工前



施工後

排水路の引き直し



きたこの工事は妹背牛町の農地の約3分の1にも及ぶ1002haを整備するという大規模なもので、ここまで大きな整備事業が行われたのは町内初です。安定した収量、そして生産性の向上を求めて、どんな工事が行われてきたのでしょうか。

# 次世

## 水の管理をもっと便利に

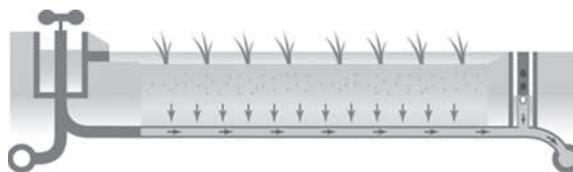
### 給水・排水を両立する地下水位制御システム

今回の工事で整備した水路には地下水位制御システムを採用しています。

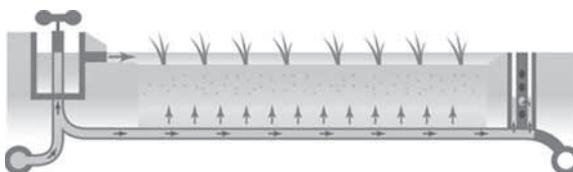
このシステムは、地下に張り巡らされたパイプを用い、給水(かんがい用水)と排水(暗渠排水)を両立して行うものです。

ほ場全体に均一に給水が行えるほか、排水時にたまった泥の除去が可能になったり、調節するためのバルブが一つに集約されたことにより、作業が簡素化されました。品質、収量の安定供給が期待できます。

排水時の水の流れ



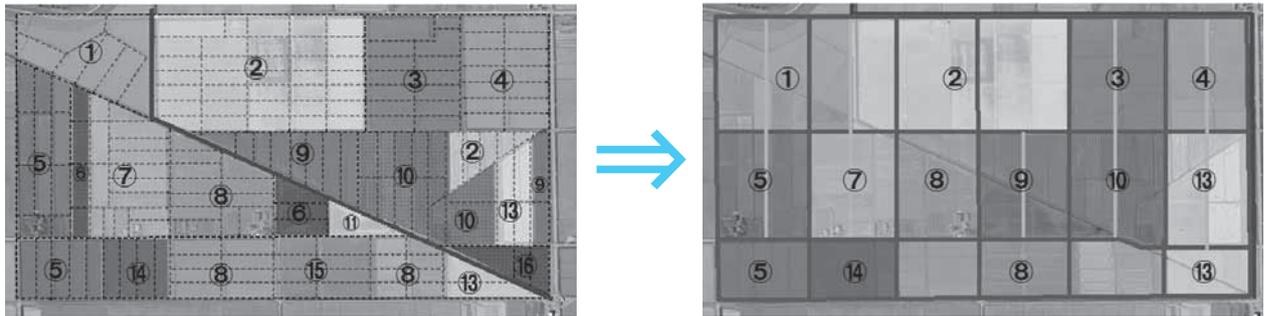
給水時の水の流れ



## 国営農地再編整備事業による効果

### 農地を集積、担い手農家へ…

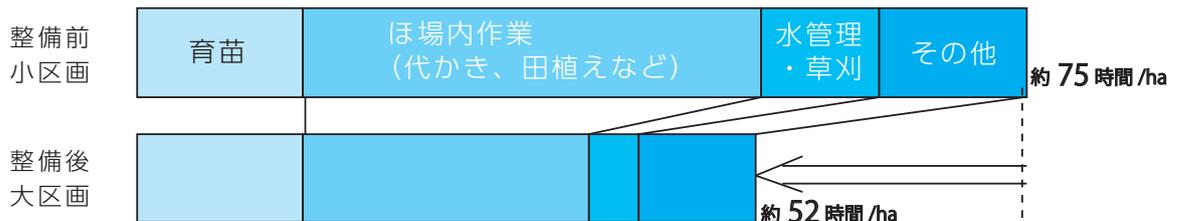
ほ場の整備を行ったことを機に、農地の集積をおこないました。離農者跡地の取得などにより分散されていた農地を統合し、同じ農家が所有している土地は一か所に集められました。これにより、作業の効率が飛躍的に上がることが予想されます。



### 農作業をより効率的に

担い手農家に農地が集約され、一人当たりの面積が増えて大変なのではないかと考える方もいると思います。しかし、農地の整備により畦が減り草刈りをする場所が減ったり、大きな機械が入りやすくなったため、手作業が軽減されました。そして、排水と給水を両立する地下水位制御システムの使用したことにより、バルブがひとつに統一され水の管理が簡易的になりました。農作業の効率化、営農時間の削減が見込まれています。調査によると、今回の大区画化により、3割もの時間が削減されると予想されています。

#### 整備事業前後の営農時間の対比



大区画化により3割の削減



竣工祝賀会  
が開催され  
ました。会の  
冒頭、感謝状  
贈呈式が行  
われ、この工

「この穀倉地帯が永遠に続くように」という願いを込めて久村良夫さん（8区）が考案したものです。



引続き同日町民会館では

国営農地再編整備事業妹背牛地区の完了を記念して11月8日、10区に造られた国営農地整備記念公園で記念碑除幕式が行われました。妹背牛地区促進期成会の佐々木行隆会長ともせうし町土地改良センターの田中一典センター長の手で幕が外されたあと、参列した関係者が豊穰を願い玉串を捧げました。記念碑に刻み込まれた「穀地永劫」の4文字は

国営規模の事業  
その完了を祝って

10年以上にも及ぶ期間をかけた行われた今回の農地整備。様々な苦労があったに違いありません。今回の整備事業に尽力されてきた方の生の声を聴くため、妹背牛地区促進期成会の佐々木行隆会長と、もせうし町土地改良センターの佐々木新一事務局長に話を伺いました。



妹背牛地区促進期成会

佐々木 行隆 会長

平成16年の暮れに当時の町長から「道営圃場整備事業にのらないか」との話がありました。特に10区の農家は泥炭地質で苦労していたため、地元から話が盛り上がりスタート。その後5区と8区からの要望で、「どうせやるなら国営で」ということになりました。3地区の代表10人で構成される期成会が発足、私が会長に推されて就任することになりました。

採択要件が1000haにも昇る国営ほ場整備事業は妹背牛で初のこと。全く知識も経験もないので、南幌や由仁などの先例を視察に行きました。また事前調査期間の3年間には中・高校生や商工・農協若妻会、改良区などのメンバーでワークショップを開き、ここでまとめられた「環境に優しい農業」はこの事業で、散策路や農村公園、ビオトープなどの形で反映されました。

国営事業は厳しい採択要件や、12年にもわたる長期事業のために不安もありましたが、永年土地改良事業にあたってきた佐々木局長を信頼してお任せしました。また旧来の水田を整理統合し4・4haもの大規模水田を造成するためには当然交換分合が必要となりますが、各地区の会長が意見を調整し、農家の方々も自分の利益よりも将来の農業のため互いに理解して下さいました。こうして事業完了に至り安堵すると共に、ご理解ご協力頂いた関係機関や各農家の方々には心から感謝しています。



もせうし町土地改良センター

佐々木 新一 事務局長

この事業の始まりは5区、8区、10区のご年配の農家さんから、「自分の持っている農地を整備して担い手の若い農家さんに渡したい」という話が出たということからでした。平成17年

ごろから3年間調査などの期間があり、平成20年より着工。令和元年に完了するまで、約12年間に及ぶ事業となりました。私の中で常に念頭にあったものは「便利で使いやすい、長く使える農地をつくる」ということです。一人あたりの農地が増えるため、その分作業効率を良くし営農時間が削減できるようにと考えながら進めてまいりました。作業をしやすくするため農地

を整備するということは、もともとあった区画を無視してほ場の形を変えていくことになりました。事業を進めていくにあたってもちろん農家の皆さんの協力が必要不可欠でしたが、最初はなかなか前向きにとらえていただくことは難しかったです。さまざまな立場の方を交えたワークショップを行ったり、何度も説明をさせていただくことによって、少しずつ協力者を増やしていきました。

工事を行ってからの効果はかなり出ているようで、特に区画整理によって畦がなくなっただけからは草刈りが楽になったとよく言ってもらえます。近年、妹背牛町に帰ってきて就農してくれている若い農家さんが増えてきています。彼らには今回整備された農地を活用して、生産量を上げてほしいと思います。

事に携わった15の事業者に感謝状が贈られました。続いて、事業経過報告が行われ札幌開発建設部深川農務所の馬淵所長からスライドでこれまで行ってきた工事やその効果について説明。祝宴のアトラクションでは、これまで事業の事務に携わってきたスタッフが

きたスタッフが  
がスコップを  
三味線に模した  
出し物が行  
われ、事業の  
完了を祝いま  
した。



完了記念事業の一環として8月24日にはウォーキングイベントも行われました。今回の事業で完成した町道1号線沿いの散策路を通り、国営農地整備記念公園までのコースを往復。参加者は一面に広がる大規模農場を眺めながら足を進めていました。

